

プラチナくるみん認定

インタビュー



認定企業：ソフトウェアビジョン株式会社
代表取締役 福山 太志 様



Q1

貴社は令和3年にくるみん認定を受けられていますが、認定後において社内外で影響はありましたか。また、くるみんマークはどのように活用されましたか。

A1

社外への影響は、地場IT中小企業でありながら、子育て世代を大事にしている、子育て世代へのサポートに重点をおいている企業としての認知につながったと感じております。

社内においては、会社が子育てサポートに対して高い意識をもって施策を策定・遂行することで、管理職と社員の意識改革につながり、昨年には男性社員の1ヶ月間の育児休暇取得につながりました。子育て世代の社員が活躍できる環境を会社全体でサポートする意識の高まりを実感している次第です。男女関わらずワークライフバランスを向上させ、柔軟な働き方を実現することで、社員の定着率の向上にも繋がっております。

マークの活用としては、ホームページ、名刺に掲載しており、特に採用活動においては、採用パンフレット、就活サイト、プレゼン資料に活用させていただいております。

Q2

プラチナくるみん認定に向けた取組を行うに当たって課題となった点や工夫された点はありますか。

A2

子育てサポートの制度を拡充させていくにあたり、子育て世代が抱えている課題や要望を把握することが重要だと考え、社員の声を聞く機会を設けました。経営陣も交えて意見交換をすることで、必要な支援や制度について議論し、制度導入を進めています。しかし、子育て中の社員の働きやすさばかりを追求してはチームのバランスは崩れてしまいます。会社としては、そのバランスが崩れないよう必要な体制を整えることや、全従業員に対して子育て支援の重要性・目的についての説明を繰り返し行うことで、会社全体で取り組む風土を醸成しています。

Q3

プラチナくるみん認定企業としての今後の抱負についてお聞かせください。

A3

これまで、様々な取り組みを積極的に行ってきたことで、社員同士が協力し合えるような雰囲気になり、事業や採用活動の発展・成果につながっていると感じています。しかし、これはまだまだ通過点です。後々、“ダイヤモンドくるみん”が制定されることがあれば、その時は認定企業第1号となれるよう、さらなる雇用環境の整備を継続して行い、今後も社員一丸となって子育て世代の社員が働きやすい職場づくりに努めて参ります。